

北海道胆振地域公共交通活性化協議会

令和5年4月4日設置



概要

北海道胆振地域は、北海道の中南部に位置し、総面積は約3,697 km²、4市7町の市町で構成されている。本地域の総人口は減少傾向で、令和2年時点で382,354人となっており、今後も減少が続くことが予測され、高齢化率についてはさらに上昇することが予測されている。本地域の公共交通は、鉄道・都市間バス・路線バスが運行されており、また、路線バスでは賄いきれない需要をカバーする役割として、ハイヤー・タクシーが運行されているほか、各市町においてコミュニティバスや乗合交通等のコミュニティ交通が運行している。一方で、人口減少・少子高齢化やモータリゼーションの進行等により、本地域の公共交通利用者は減少の一途をたどっており、加えて、新型コロナウイルス感染症の影響等により、公共交通利用者の減少に拍車がかかったほか、公共交通の運行を支えてきた運転手や運行管理者、整備士等の安全運行の担い手不足が深刻化している状況である。このような背景を踏まえ、地域住民の生活や各産業を支える交通手段を維持確保し、持続可能な交通体系を構築していくため、地域公共交通のマスタープランとなる「北海道胆振地域公共交通計画」を策定する。

○地域公共交通の現況

- ・ JR線：千歳線、室蘭本線、日高本線
- ・ 都市間バス：11路線
- ・ 路線バス：地域間幹線系統16系統、広域生活交道路線8系統、市町村生活バス路線1系統、市町村単独補助路線132系統
- ・ コミュニティ交通：室蘭市を除く3市7町で運行

○地域公共交通の課題

- ・ バス・ハイヤー・タクシーの運営業務に係る人材の確保
- ・ 住民の公共交通に対する意識醸成
- ・ 利用実態・ニーズに即した路線の見直し・運行の最適化
- ・ 持続可能な移手段の確保
- ・ バス路線の維持確保に向けた市町支援の充実

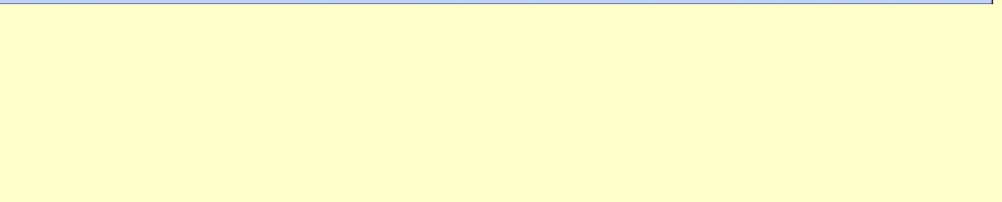
○調査の主な内容

- ・ 地域概況及び関連計画の整理：人口分布・施設立地・市町総合計画等の整理
- ・ 地域公共交通の実態調査：バス乗込み調査、交通事業者調査、市町村調査
- ・ 住民による広域移動ニーズ調査：住民アンケート調査

○地域公共交通活性化協議会開催状況

- 令和5年4月4日 第1回総会（書面開催）：協議会設置、事業計画、収支予算等
 - 令和5年7月6日 第2回総会：事業スケジュール、各種調査案等
 - 令和5年10月11日 第3回総会：計画の方向性案、計画骨子案等
 - 令和5年11月28日 第4回総会：計画素案等
 - 令和6年3月予定 第5回総会：計画案等
- ※上記のほか、幹事会、方面別分科会において、計画素案等の協議を実施

公共交通の概要



北海道胆振地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【地域概況及び関連計画の整理】

・北海道胆振地域の地形・地勢や人口分布・推移、主要施設の立地状況（医療施設・観光施設など）等を整理するとともに、北海道や市町村の関連計画を整理した。

【地域公共交通の実態調査】

①交通事業者調査

・各交通事業者を対象として、公共交通の利用実態やバス運転手等の実情・今後の見通し等を調査した。

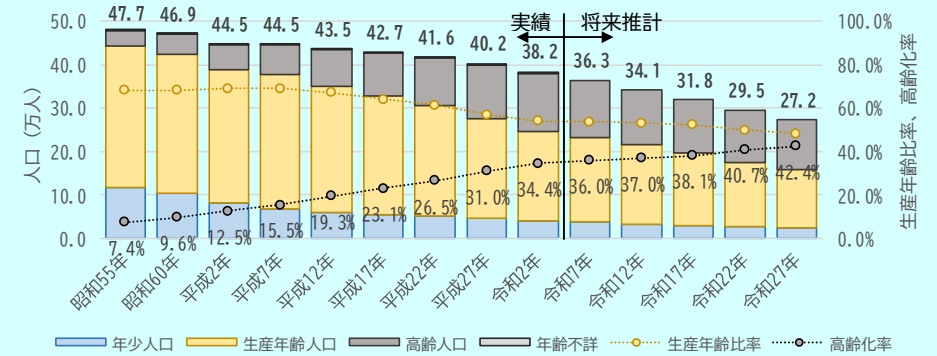
②市町村役場調査

・各市町を対象として、市町営の公共交通（コミュニティバスなど）の運行・利用実態や、その他の交通資源（タクシー・ハイヤー、スクールバスなど）の状況、公共交通に関する取組（利便性向上・利用促進等）状況等を調査した。

③バス乗込み調査

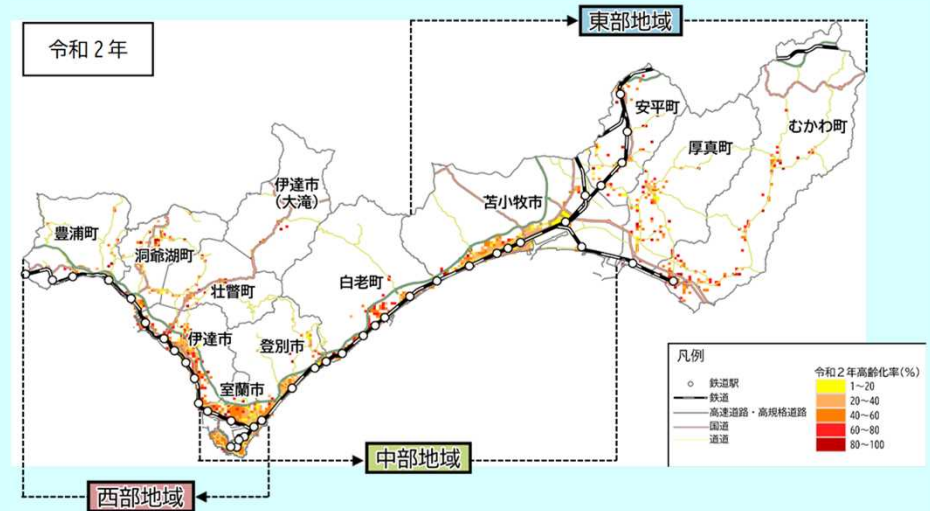
・本地域の地域幹線系統16系統を対象に調査を行った。乗客へのアンケート調査と、調査員の目視による乗降者数の把握を実施し、2,714名の乗降データを得た。

【本地域の人口推移】



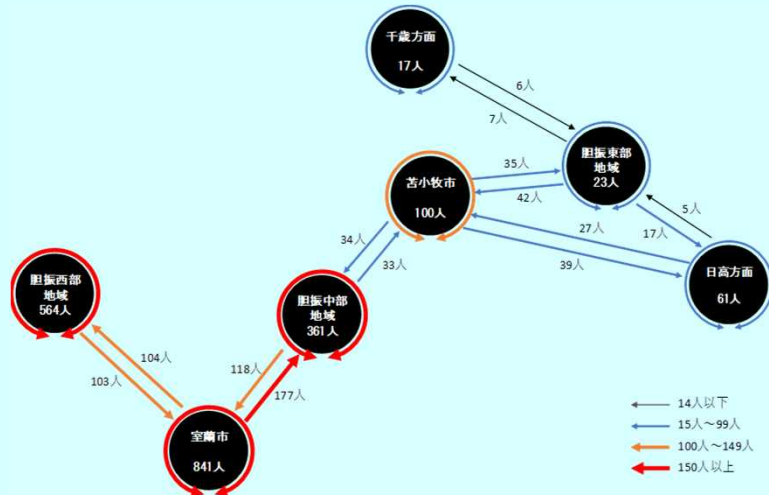
北海道胆振地域の総人口は減少傾向にあり、今後も人口減少や高齢化率の上昇が予想されている。

【本地域の高齢者の居住状況】



市街地は高齢化率が比較的低いが、郊外部は高齢化率が高い地点が広範囲に点在している。今後、市街地の高齢化率の上昇と、郊外部の高齢化率の一層の上昇が予想される。

【本地域内を運行する地域間幹線系統利用者の動き】



西部地域（室蘭市・伊達市・豊浦町・壮瞥町・洞爺湖町）及び中部地域（室蘭市・苫小牧市・登別市・白老町）では地域内の移動と室蘭市への移動が多く、東部地域（苫小牧市・厚真町・安平町・むかわ町）では苫小牧市への移動が多く見られた。

北海道胆振地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●事業の結果概要

【住民等の移動実態・ニーズ把握調査等】

①統計データ分析

- ・地域住民の通勤・通学・通院などの移動特性を国勢調査等の既存データに基づいて整理した。

②住民アンケート調査

- ・地域住民の移動特性や公共交通の利用実態・ニーズ等の把握を目的として、地域住民を対象としたアンケート調査を実施した。効率的に調査を実施するため、WEB回答も可とした。また、高校生を対象とした通学アンケート調査も併せて実施した。サンプル数は、一般アンケート調査で3,549票、通学アンケート調査で96票であった。

【市町別今後の公共交通の利用】

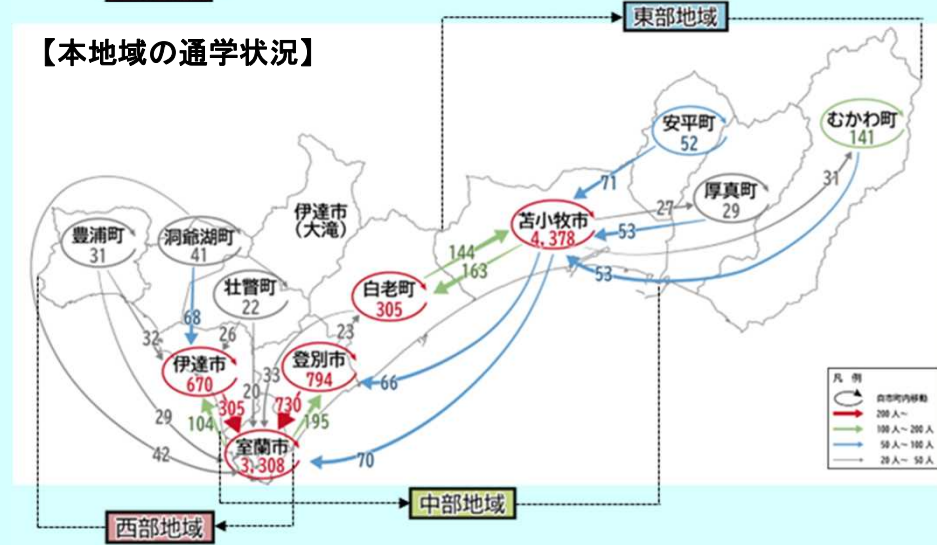
地区名	市町名	公共交通に頼らざるを得ないため大事な移動手段である	数年後には免許を返納する予定のため大事な移動手段である	免許返納等に関わらず、運賃助成等の支援があれば利用すると思う	数年後には進学等で今の住まいから引越すため、利用しなくなると思う	自動車が主な交通手段だが、極力公共交通を利用したいと思う	自動車が主な交通手段のため、利用しないと思う
西部地域	豊浦町(n=185)	38.4%	28.6%	17.3%	1.1%	23.2%	44.9%
	洞爺湖町(n=165)	32.1%	31.5%	19.4%	3.0%	24.8%	35.8%
	壮瞥町(n=196)	36.2%	27.0%	20.5%	3.8%	19.5%	48.1%
	伊達市(n=449)	34.7%	31.2%	25.6%	1.3%	17.6%	35.4%
中部地域	室蘭市(n=451)	46.3%	30.2%	24.6%	2.9%	22.6%	23.1%
	登別市(n=435)	41.4%	36.3%	27.4%	0.7%	19.5%	28.0%
	白老町(n=263)	44.5%	37.3%	26.6%	0.4%	19.0%	30.4%
東部地域	苫小牧市(n=536)	41.6%	30.8%	21.3%	0.9%	17.4%	21.8%
	安平町(n=152)	41.4%	29.6%	18.4%	2.0%	26.3%	31.6%
	厚真町(n=239)	27.2%	33.1%	15.1%	1.7%	20.1%	44.4%
	むかわ町(n=137)	34.3%	31.4%	12.4%	2.9%	20.4%	44.5%
西部地域合計(n=1446)		38.5%	29.8%	22.7%	2.3%	20.8%	34.2%
中部地域合計(n=1685)		43.3%	33.1%	24.6%	1.3%	19.6%	25.1%
東部地域合計(n=1064)		37.4%	31.2%	18.3%	1.5%	19.6%	31.2%
胆振地域合計(n=3208)		39.0%	31.8%	22.2%	1.7%	20.1%	32.0%

今後の公共交通の利用意向として、「公共交通に頼らざるを得ないため大事な移動手段である」という回答が最も多かった。また、「数年後には免許を返納する予定のため大事な移動手段である」という回答も多く見られた。

【本地域の通勤状況】



【本地域の通学状況】



- ・室蘭市や苫小牧市を中心とした移動が多く見られた。
- ・西部地域は自市町内や近隣市町間への通勤・通学が多いが、東部地域では苫小牧市への移動が多い。

北海道胆振地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

【計画案の構成】

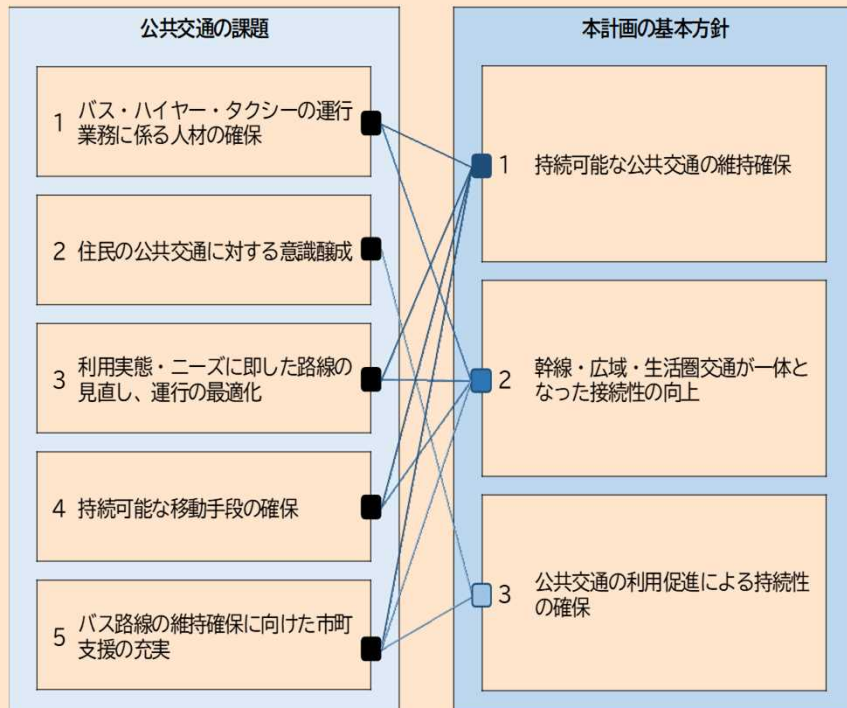
・計画案は「はじめに」、「関係法令、上位・関連計画と本計画との位置づけ」、「地域の概況」、「地域の移動特性・ニーズ」、「各種調査結果等から抽出された課題」、「基本的な方針及び計画目標」、「目標を達成するための施策・事業」、「計画の進捗管理及び管理体制」の構成で計画案の策定を進めている。

・「各種調査結果等から抽出された課題」では、地域の現状や問題点を整理した上で、北海道胆振地域が対応していくべき課題をとりまとめる。また、課題を踏まえ、本地域が目指すべき「将来像」や将来像の実現に向けた「基本方針」を設定するとともに、方針を実現するため達成すべき具体的な「目標」を設定する。

【北海道胆振地域が目指す公共交通の将来像】

胆振地域の公共交通に係る全ての関係者が

主体性を持ち維持確保する持続可能な公共交通ネットワークの構築



【各種調査結果等から抽出された課題と基本方針のイメージ（案）】

現状及び問題点	課題
公共交通の担い手不足	→バス・ハイヤー・タクシーの運行業務に係る人材の確保
高い自家用車依存	→住民の公共交通に対する意識醸成
人口減少や少子高齢化の進行 住民の移動実態への的確な対応 公共交通に対する住民ニーズへの対応	→利用実態・ニーズに即した路線の見直し、運行の最適化 →持続可能な移動手段の確保
将来に向けた公共交通の確保	→バス路線維持確保に向けた市町支援の充実

【基本方針（案）】

1 持続可能な公共交通の維持・確保

→本地域における市町間を跨ぐ移動手段の維持確保に向けては、路線バスとして運行を継続させていく区間と運行形態を変化させつつ生活移動等を確保する区間との線引きが必要となることから、関係する市町と交通事業者による協議を活発化させ、各市町から交通事業者への支援の在り方の検討や人材確保に取り組み、持続可能な公共交通ネットワークの維持確保を推進します。

2 幹線・広域・生活圏交通が一体となった接続性の向上

→胆振地域の住民の居住市町内あるいは胆振地域内、中核都市までの様々な移動目的を支える重要な移動手段として、幹線・広域・生活圏交通の持続性を高めていくためにも、各交通間の接続性を確保・強化していく取組を推進します。
→また、生活圏交通は、生活移動の基盤として欠かせない重要な交通であり、各市町が独自で実施しているコミュニティ交通等の確実な維持確保に取り組みます。
→深刻化する路線バス・ハイヤー・タクシーなどの交通事業者における人材不足の改善に向けた各市町の取組の実施のほか、各市町から交通事業者への支援のあり方について検討を進めます。

3 公共交通の利用促進による持続性の確保

→公共交通の利用をより促すためには、各市町や交通事業者等の関係者が連携し、地域内外に向けた本地域内の公共交通の運行情報を継続的に発信していくとともに、住民等が公共交通を利用してみたいと思えるように、さらなる利便性の向上に資する取組を推進していきます。

北海道胆振地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

【路線・系統ごとの取組方針・維持確保の方針（案）】

路線名	取組方針
■JR北海道 ・千歳線 ・室蘭本線 ・日高本線	・広域交通や生活圏交通が鉄道との接続性を確保することに加え、関係する市町等と交通事業者が連携しながら、鉄道の利便性向上及び利用促進に取り組む。
■道南バス ・高速白鳥号 ・高速蘭東ライナー号 ・高速おんせん号 ・高速ハスカップ号 ・高速ペガサス号 ・高速はやぶさ号 ・高速登別温泉エアポート号 ・登別温泉・白老線 ■北海道中央バス ・高速むろらん号 ・高速とまこまい号	・広域交通や生活圏交通が都市間バスとの接続性を確保することに加え、関係する市町等と交通事業者が連携しながら、都市間バスの利便性向上及び利用促進に取り組む。

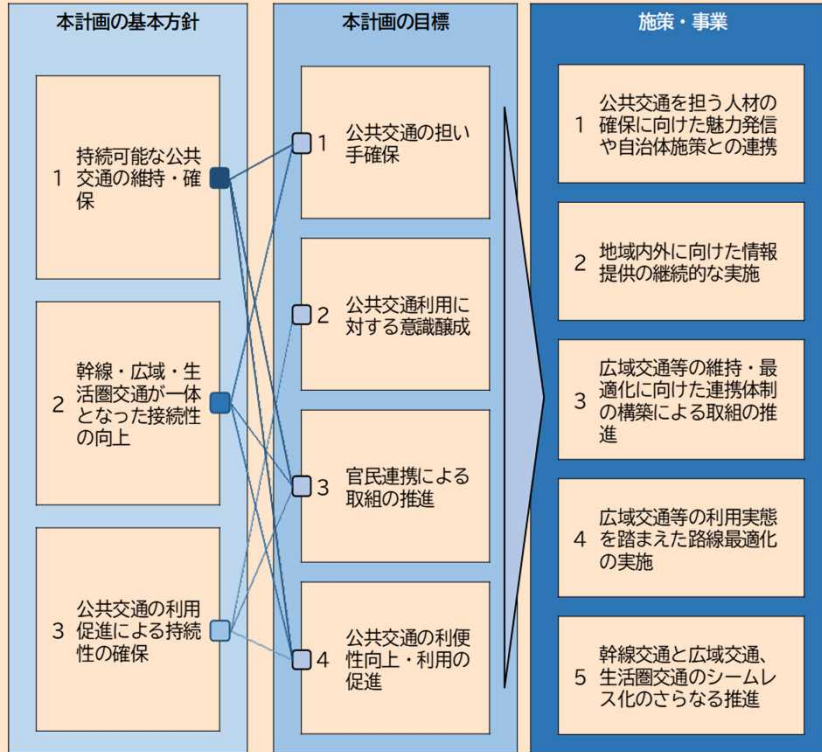
路線名	維持確保の方針
■道南バス ・室蘭・洞爺湖線① ・室蘭・洞爺湖線② ・室蘭・伊達線 ・室蘭市内線② ・登別・苫小牧線 ・室蘭・登別温泉線 ・日高沿岸線① ■あつまバス ・千歳線	・地域公共交通確保維持事業（陸上交通：地域間幹線系統補助）を活用し、かつ関係する市町等と交通事業者が連携しながら、利用促進に取り組み、移動手段の維持に努める。
■道南バス ・有珠線① ・胆振線 ・洞爺湖温泉線 ・洞爺湖温泉線② ■あつまバス ・苫小牧線① ・苫小牧線② ・苫小牧線③	・地域公共交通確保維持事業（陸上交通：地域間幹線系統補助）を活用し、かつ関係する市町等と交通事業者が連携しながら、利用促進に取り組みつつ、利用実態・ニーズに応じた見直しなど持続可能な移動手段の確保のための最適化について検討を行う。

路線名	維持確保の方針
■道南バス ・豊浦線	・地域公共交通確保維持事業（陸上交通：地域間幹線系統補助）を活用し、かつ関係する市町等と交通事業者が連携しながら、利用促進に取り組みつつ、路線形態も含め持続可能な移動手段の確保のための最適化について検討を行う。
■道南バス ・市町村単独補助路線32系統 ■あつまバス ・市町村単独補助路線2系統	・関係する市町と交通事業者が連携しながら、利用促進に取り組みつつ、持続可能な移動手段の確保のための最適化に向けた検討を行う。 ・なお、システムの維持確保に向けては、必要に応じて、北海道の生活交通路線維持対策事業（広域生活交通路線等）や地域公共交通確保維持事業（陸上交通：地域内フィーダー系統補助）の活用も検討する。
■道南バス ・日新国道線2 ・錦岡線 ・勇払線1 ・勇払線2 ・沼ノ端線2 ・澄川錦岡線 ・川沿ときわ線 ・宮の森線	・苫小牧市と交通事業者が連携しながら、利用促進に取り組みつつ、持続可能な移動手段の確保のための最適化に向けた検討を行う。

北海道胆振地域公共交通活性化協議会 計画策定に係る事業の取組状況

●地域公共交通計画等の計画策定に向けた方針

・「目標を達成するための施策・事業」では、目標達成に向けた施策・事業の内容や実施主体、実施スケジュールを設定し、「計画の進捗管理」において、目標の評価方法（評価指標・目標値など）や評価結果を踏まえた見直しの実施方針を設定する。



【施策・事業（案）】

- 1 公共交通を担う人材の確保に向けた魅力発信や自治体施策との連携**
 - ・ 運転手採用イベントの開催
 - ・ 移住施策等と連携した就職説明会や運転体験会の実施 など
- 2 地域内外に向けた情報提供の継続的な実施**
 - ・ 総合時刻表等の作成配布やバスの乗り方教室の開催
 - ・ バスロケーションシステムの周知、利用促進 など
- 3 広域交通等の維持・最適化に向けた連携体制の構築による取組の推進**
 - ・ 国、道、市町、交通事業者等の連携体制の構築、継続した協議の実施 など
- 4 広域交通等の利用実態を踏まえた路線最適化の実施**
 - ・ 広域交通等の維持や持続可能な移動手段の確保のための最適化に向けた協議
 - ・ バス路線に対する支援の枠組みの検討・協議 など
- 5 幹線交通と広域交通、生活圏交通のシームレス化のさらなる推進**
 - ・ 乗換拠点の整備や各公共交通間のダイヤ調整など接続性の確保 など

●事業実施の適切性

・ 予定した事業は全て年度内に実施する予定であり、事業は適切に実施されている。

●地方運輸局及び地方航空局における二次評価結果

- ・ 事業は、計画どおり実施されている。
- ・ 引き続き事業の完了に向けて取り組んでいただきたい。
- ・ 複数地域全体の地域公共交通計画を策定するのは調整に労力を伴うが、区域内の状況を踏まえつつ、計画を確実に策定いただきたい。
- ・ なお、その際には、公共交通事業の収支率や公的資金投入額などの事業効率の改善等についても検証していくことをご検討いただきたい。